

## じぶんできめる応援団 第2回

### 「その人らしい暮らし」をみんなで支えていく



井手上次男さん／オーケーサービス東海

小代忠明さん／NPO 法人知多地域権利擁護支援センター

「福祉」は、誰がする仕事でしょうか？介護のヘルパーさんでしょうか、老人ホームのスタッフでしょうか。「公務員」だと答える方もいるかもしれませんね。

知多地域権利擁護支援センターには、こうした施設で働く人や福祉の専門職はもちろん、民間企業にも頼もしいパートナーがいてくれます。今回は権利擁護センタースタッフの小代忠明が、センターと20年ほどのお付き合いになるオーケーサービス東海の井手上次男さんにお話をお聞きしました。

#### 引越しの手伝いからペットの預かりまで

井手上：東海市のオーケーサービス東海の井手上と申します。もとはマンションなどにユニットバスやシステムキッチンの設備を取り付ける仕事をしていました。その会社を20年くらいに息子に任せてから、便利屋を始めました。

ちょうど開業したばかりの頃に、当時の「知多地域成年後見センター（知多地域権利擁護支援センターの前身となる団体）」の職員だった今井さんから電話で依頼があったのが、お付き合いの始まりです。センターさんが後見人になっていた、東海市の方のお部屋の片付けを頼まれたのが最初のお仕事でしたね。

以来、コンスタントにお仕事を頼んでいただけるようになりました。センターで関わっておられる方のお引越しを手伝うことも多いですし、エアコンの取り付けやテレビの設置もします。かと思えば、「電球が切れたから取り換えてほしい」と電球1個だけ持って駆けつけることもあります。



そうそう、庭木の剪定に行くこともありますよ。庭の木や草が伸び放題だとご近所の方からの苦情になることがよくあるんですよね。認知症の方が庭のある家に一人でお住まいだと、ご自身では手入れができなくなってしまうからです。

小代：井手上さんをお願いして、本当に助かるなと感じるのは、私たちが関わっている方お一人ずつに合わせた対応をしていただけることなんです。

ひとり暮らしがどうしても難しくなって、施設やグループホームに移られる方が少なくないのですが、井手上さんはただ家具を届けるだけではなくて、こっちに置いた方がいいんじゃない、使いやすいでしょう、と聞きながら運んでくれたりするんですよね。そんなふうにしてもらえたら、ご本人も新しい生活が楽しみになるだろうな、と思って。

井手上：もともとお年寄りや障害のある人向けの仕事がしたいと思って便利屋を始めたわけではないんだけど…。私は、お客さんとお話しするのが好きですからねえ。全く苦にならないです。

小代：センターの利用者さんの暮らしぶりや、ご本人の人となりを分かった上で仕事をしようとしていただけるのがありがたいです。

井手上：例えば、認知症の方のお宅にエアコンを取り付けに行くとしたら。電話で「明日、この時間に行きますので家に居てくださいね」とお伝えしても分からなくなってしまうよね。だから私は事前にお宅にうかがって、「何月何日の何時に来ますから、留守にしないでね」とメモに書いて置いておく、といった工夫をしています。

それでも結局忘れられてしまって、家に入れなかったりするんですけど。(笑)

小代：利用者さんと井手上さんが最初にお会いされる時は、センターの職員が必ず立ち会うのですが、それ以降の細かな調整などは井手上さんにお任せすることが多いんです。

他にも本当に色々なことを手伝っていただいていて…ヘルパーさんが入れるようにと、家の庭を舗装して駐車場を作ってもらったこともありますし、傾いたブロック塀を直していただいたこともあります。あと、いわゆる「ゴミ屋敷」と言われるような状態のお部屋の片づけをお願いすることも少なくないですね。

井手上：ものが積み上がっていて、天井まで10cmくらいしか空いていなかったりと、最初はびっくりしましたね。

私たち他人から見れば「ゴミ」かもしれないけれど…。住まわれている方にとっては大切なものもありますから。小銭やお金が出てくることもありますし。



小代：引越しといえば、ペットをどうするかも頭の痛い問題のひとつです。利用者さんが施設に入居するとなったとき、ペットと一緒に引っ越せることはほとんどありません。ご本人と話し合っ、センターの職員が誰か代わりに飼ってもらえる人はいないかと東奔西走して探し回ります。

井手上さんには、受け入れができるまで一時的に犬を預かってもらうとか、利用者さんの入院中に飼っている猫の餌やりに毎日行っていていただく…なんていうお仕事をお願いしたこともあります。

### その人らしく暮らす権利を守る

ー引越しからペットの世話まで、きめ細やかに対応されているようですが、権利擁護センターのみなさんはあくまで利用者さんの「後見人」ですよね？

成年後見の業務って、そこまでやらなければいけないものなののでしょうか？

小代：えっ…!?だって、私たちがやらなければ、誰もできないことですし…。

確かに成年後見人として「何を・どこまでやらなければならない」と細かく制度で決められているわけではありません。財産管理（不動産や預貯金など金融資産の管理、相続等の手続きなど）や身上保護（福祉サービスや施設入所・入院の契約、契約の履行状況の確認など）といった法律行為を手伝うだけで事足りる方もいらっしゃると思います。

ただ、知多地域権利擁護支援センターでは「権利擁護」とは、「認知症や障がいがあっても、住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、その方の権利や財産を守ること」だと考えています。家が片付いていなくても、かわいがっていたペットと離れてもそのまま、という状態で「その人らしく生きる」権利が守られていると言えるのだろうか、と思います。

井手上：ひとり暮らしのお年寄りや障害のある方のお手伝いの需要は確実に増えていると思いますよ。権利擁護支援センターさんだけでなく、知多地域の地域包括支援センターさんですとか、色々な機関から便利屋に来てほしいと依頼をいただきます。

先ほどエアコン取り付けの話をしましたけれど、認知症のある方と接するのはやっぱり私にとっては難しいと感じます。でも、そういう病気なのだから、仕方がないですよええ。私自身も、将来はいつ同じように認知症になってしまうか分からないですし。

だから、センターさんが間に入ってくれていると思うと安心ですよ。今ではどの職員の方とも気兼ねなく話せますし、困ったら相談すればいいですから。大変な仕事もあるけれど、楽しくやらせてもらっています。

小代:先ほど井手上さんのお仕事ぶりについて、ただ作業するだけではなく、利用者さんの生活ぶりを想像して尊重してくれると言いましたが、知多地域権利擁護支援センターがお付き合いをしている業者さんには、同じ姿勢で取り組んでくださる方がたくさんいらっしゃるんです。

井手上さんはもちろん、介護タクシーの会社の方もそうですし、不動産屋さん、葬儀屋さんなど、たくさんの民間の会社さんが、「その人らしい暮らし」を実現するための強い味方になってくれています。



井手上:私たちは依頼をいただいた時におうかがいするだけですけど、センターの皆さんはその人の暮らしが続く限りお手伝いをされ続けているわけですね。本当に大変だと思います。

でも、センターさんみたいな仕事をしてくれる人がいるから、後見制度を利用される人たちも安心して暮らせると思うし、私たちも頑張れるわけです。だからこそ、利用者さんにはできるだけ優しく接したいし、その方に納得していただける仕事をしたいと思えるんです。